

未来への協働

2022年11月23日(水)
第354号

発行所 未来への協働
ホームページ
https://kyodimirai.org
〒577-0023
大阪府東大阪市荒本2丁目14-5
電話/FAX
(06) 4306-3512
郵便振替
00940-8-213061
Eメール
mirai_newsroom@yahoo.co.jp
●発行人 山本 康

●第2・4水曜日発行
●200円(本体182円)
●定期購読 購読料(送料別)
1月 400円(送料188円)
半年 2,400円(送料1,128円)
1年 4,800円(送料2,256円)

今号の主な内容

- 2面 岸田政権と規制委が原発無期限使用へ
- 3面 沖縄県史「女性史」編を読む
- 4面 東アジアの平和を構築する 第1回
- 5面 “産む性の保護と女性の社会参加
- 6面 明治維新と琉球国(下)

紙面へのご意見、感想を
上記発行所までお寄せください。FAXでも送れます(電話番号と同じ)。詩、短歌、川柳、写真なども募集しています。

扇状地

わからないことがある。「Jアラート」のイミするところ。先日の北朝鮮によるミサイル発射の際、日本上空を通過する恐れがあるというので政府は「Jアラート」を発令した。しかし、それは早とちりで、実際には上空は通過せず。その前にレーダーから消滅して「不明」というからみっとならない▼「Jアラート」を発令して国民にどうしろか? 「窓から離れる」とか、「頭を覆って伏せろ」とか、児童には「机の下に隠れる」とか。でも、ミサイルは200m上空を飛んでいる▼それは人工衛星の高さ。そこから何か落ちてくることを想定している? あるいは距離の計算間違いで日本にミサイルが落ちる? ▼それだと頭抱え伏せている場合じゃない。政府がしなければならぬことは、北朝鮮に対して「他国の上を飛ばすな。ミサイル発射はやめよ」と言うこと▼本当に国民を守る気なら、「頭ふせろ」と言う前に外交努力に出て行けよ。頭抱えるのは国民じゃなく、キンドさん、あなただよ。(尙)

朝鮮半島危機 18年軍事合意に立ち戻れ 「南北対話で平和実現を」 金光男

在日韓国研究所代表
金光男さん

軍事衝突さえも懸念される南北朝鮮の状況について、在日韓国研究所代表の金光男さんが解説した。(11月6日、大阪市内で行われた講演を要約／本紙編集委員会)

この間、韓米軍事演習が激化していることの影響は大きい。9月26日から

29日にかけて、米空母「ドナルド・レーガン」などが参加する韓米海上合同演習が実施された。9月30日には自衛隊も参加して日本海で合同対潜水艦訓練が行われた。対して朝鮮は10月4日、日本上空を通過する弾道ミサイルを発射した。

また韓・米合同空中演習「ヴィジラント・ストーム」が10月30日から11月5日まで行われた。韓国空軍と米空軍の戦闘機や空中給油機など240機が参加し、朝鮮攻撃を想定した訓練が行われた。これは空軍力で韓米に比べて格段に劣る朝鮮に

止の申し立ての却下(10月18日)。その当日にNAA(成田空港会社)は「収去命令」の申し立てを千葉地裁に行った。NAAはやくら裁判の対象物件だけでなく、昨年6月の最高裁で判決が確定した対象農地や作業小屋などの物件に対して強制執行することを明らかにした。千葉地裁は市東さん

緩和し、18年朝米共同声明の履行を具体化するべきである。日本は朝鮮戦争の停戦(臨戦態勢)継続か、恒久平和体制への転換か、いずれを望むのかを明らかにすべきだ。対話によって朝鮮戦争を終結させることが平和の実現につながる。

攻撃の只中にある周辺地域住民にも広く訴えていくと述べた。また勤労千葉中村委員長、関西実行委員会松原さん、市東さんの農地取り上げに反対する会山口さんはじめ全国の支援が発言。反対同盟の緊急アピールに応えようと決意を明らかにした。

強制収用を迎え撃つ 11月27日に 天神峰で現地闘争

51年前の1971年9月、大木よねさんに対する強制収用以来の農地強奪が迫る中、成田市

天神峰の市東孝雄さんの農地と農業宅の作業小屋前などで11月13日、緊急闘争が開かれた。9月2日の新やぐら裁判の控訴審でのやくら等の撤去を認める不当判決。その仮執行停止

市東さんとともに無農薬・有機農業による産直運動を続ける秋原富夫さんは、予想しなかった強制執行の始まりへの驚きとたじろぎを率直に語りながら、11月27日の緊急現地闘争への全力の取り組みを訴えた。また空港拡張にともなう用地買収

11月27日(日) 天神峰現地闘争
●午後1時 集会、デモ
●市東孝雄さん宅中庭
●千葉県成田市天神峰63
11月28日(月) 耕作権裁判
●千葉地裁包囲デモ
●午前9時 千葉市葭川公園集合 集会後、千葉市街地をデモ
●午前10時半 千葉地裁

わからぬことがある。「Jアラート」のイミするところ。先日の北朝鮮によるミサイル発射の際、日本上空を通過する恐れがあるというので政府は「Jアラート」を発令した。しかし、それは早とちりで、実際には上空は通過せず。その前にレーダーから消滅して「不明」というからみっとならない▼「Jアラート」を発令して国民にどうしろか? 「窓から離れる」とか、「頭を覆って伏せろ」とか、児童には「机の下に隠れる」とか。でも、ミサイルは200m上空を飛んでいる▼それは人工衛星の高さ。そこから何か落ちてくることを想定している? あるいは距離の計算間違いで日本にミサイルが落ちる? ▼それだと頭抱え伏せている場合じゃない。政府がしなければならぬことは、北朝鮮に対して「他国の上を飛ばすな。ミサイル発射はやめよ」と言うこと▼本当に国民を守る気なら、「頭ふせろ」と言う前に外交努力に出て行けよ。頭抱えるのは国民じゃなく、キンドさん、あなただよ。(尙)



朝鮮半島上空で行われた米韓合同演習に参加したB1B超音速戦略爆撃機、F35戦闘攻撃機など=11月4日、米空軍のウェブサイトより転載

11月3日、ワシントンで開かれた韓米安保協議会では韓国の国防省長官が「金正恩政権を終わらせる」と発言し、「金正恩政権を打倒する」と意思表示した。朝鮮半島危機は非常に深刻である。



市東孝雄さんの農地の前でシュプレヒコール=13日、成田市

天神峰の市東孝雄さんの農地と農業宅の作業小屋前などで11月13日、緊急闘争が開かれた。9月2日の新やぐら裁判の控訴審でのやくら等の撤去を認める不当判決。その仮執行停止

市東さんとともに無農薬・有機農業による産直運動を続ける秋原富夫さんは、予想しなかった強制執行の始まりへの驚きとたじろぎを率直に語りながら、11月27日の緊急現地闘争への全力の取り組みを訴えた。また空港

11月27日(日) 天神峰現地闘争
●午後1時 集会、デモ
●市東孝雄さん宅中庭
●千葉県成田市天神峰63
11月28日(月) 耕作権裁判
●千葉地裁包囲デモ
●午前9時 千葉市葭川公園集合 集会後、千葉市街地をデモ
●午前10時半 千葉地裁

わからぬことがある。「Jアラート」のイミするところ。先日の北朝鮮によるミサイル発射の際、日本上空を通過する恐れがあるというので政府は「Jアラート」を発令した。しかし、それは早とちりで、実際には上空は通過せず。その前にレーダーから消滅して「不明」というからみっとならない▼「Jアラート」を発令して国民にどうしろか? 「窓から離れる」とか、「頭を覆って伏せろ」とか、児童には「机の下に隠れる」とか。でも、ミサイルは200m上空を飛んでいる▼それは人工衛星の高さ。そこから何か落ちてくることを想定している? あるいは距離の計算間違いで日本にミサイルが落ちる? ▼それだと頭抱え伏せている場合じゃない。政府がしなければならぬことは、北朝鮮に対して「他国の上を飛ばすな。ミサイル発射はやめよ」と言うこと▼本当に国民を守る気なら、「頭ふせろ」と言う前に外交努力が出て行けよ。頭抱えるのは国民じゃなく、キンドさん、あなただよ。(尙)

文化と暮らしが平和の要

高良鉄美 「リスクは米軍基地」 大阪参院議員

11月3日、大阪市内の扇町公園で「かがやけ憲法集会」が開かれた(写真左)。同志社大教授の岡野八代さんが講演。岡野さんと若者2人によるクロストークも行われた。



岡野さんは「敗戦前は明治天皇の誕生日だった11月3日が、敗戦後、新憲法が公布され、戦争を放棄した日となり、『文化の日』となったことの意味を大切にしたい」と次のように話した。

「私たちは国のために生きているのではない。国は個人の尊厳を守るための道具にすぎない。それが、私が憲法から受け取ったメッセージだ。このメッセージが憲法を改正したい政治家にとって邪魔でしかたがない。いま当たり前のように軍事力の増強や敵基地攻撃能力の保有など威勢のいいことを言う人がいる。しかし、人口が密集し、原発を54基も抱えている日本は国土を戦場にする」と話した。

最後に岡野さんが「市民はまったく改憲を考えない。改憲論者たちはどう(反論)するか。フィンランドはロシアと国境を接しているため、GDPの2%の軍事費を結んだ。」(堀ちえこ)

「必要なのは、武力を使わないと約束するための外交や交渉能力だ。私たちにできることは、文化と暮らしが大切だと考える議員を国会に送ることだ。」

トークセッションでは2人の若者が「ジェンダー平等」「生活の不安」「憲法とかけ離れた政治」「自分にとっての憲法」というテーマで議論。

沖繩の高良鉄美参院議員はメッセージで「今は主権在米。沖繩は憲法を遵守しない国によって安全を脅かされている。沖繩にとってのリスクは米軍基地だ」とし「将来世代が平和な未来予想図を描くことができるように祈念する」という言葉で結んだ。

敵基地攻撃に反対 国葬反対の勢い広がる

京都



11月3日、京都市東山区の円山公園音楽堂で「生かそう憲法、守ろう9条」を掲げて憲法集会が開かれ、1600人が参加した(写真左)。集会では、憲法9条京都の代表世話人で京都大学教授の高山佳奈子さんが開会のあいさつ。来賓として社会民主党の中村在男さん、日本共産党の穀田恵二さんがあいさつ。立憲民主党の泉健太代表はメッセージを寄せた。

講演は東大名誉教授の小森陽一さん。「いまや野外で講演できるのは京都のここくらいです。今日はよく晴れて紅葉も美しい」と切り出した。

9条の会の事務局長を務める小森さん。18年前(2004年)に会を結成したきっかけは文芸雑誌『すばる』で井上ひさしさんと小森さんとの座談会だった。昭和文学史をテーマに加藤周一さんをこへ呼んだ。改憲が恐れた自民党が統一教会や労働組合が主役になるのではなく、市民を中心とした運動を考えようとした。そのとき加藤さんは「新たに敵基地攻撃能力や軍事費拡大に踏み込む」として、産省で検討されている。運動休止中でも配管やケーブル、ポンプ、弁など原発の各設備・部品は劣化する。定期検査で部品を全部交換できるわけではない。電力会社が行う点検の範囲も限定的だ。「40年超は廃炉」という規定をゆるがせにしてはならない。

池内潤子

京都で基地防護訓練

日米共同演習の一環で

京丹後市



京都府京丹後市にある米軍基地の撤去を求める集会在11月12日、京都市内で開かれ、65人が参加した。集会では京丹後市

今月10日から19日まで、日米共同統合演習「キーンソード23」が行われている。この演習は沖繩・南西諸島を中心に自衛隊2万6000人、米軍1万人が参加している。その一環として京丹後市でも基地防護訓練がおこなわれている。その様子がスライドで

この基地防護訓練に対して米軍基地撤去を求める京都市民団体「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」は11日、現地で抗議行動をおこなった。またこの9月に施行された土地利用規制法の下で京丹後市の基地周辺が特別注視区域として監視体制が強められている。最後に12月11日の「米軍基地いらんちゃフェスタ in 丹後2022(丹後文化会館)」への参加を訴えた。集会后、四条河原町をデモ行進した。

OPINION

岸田政権と原子力規制委 原発の無期限使用めざす

岸田政権は「40年廃炉、検査に合格すれば一度だけ20年延長可能」とするルールをなくそうとしている。安倍元首相でさえ実現できなかったこの暴挙に、原子力規制委員会(以下、規制委)も追隨しているのだ。

規制委は11月2日の定例会で、「原則40年、最長60年」とする原発の運転期間のルールを、60年を超えた原発でも10年以上の審査ができるのか。このままでは期間制限なしの原発運転が可能になる恐れが大きい。そもそも「40年ルール」は福島第一原発の事故後に作られたものである。ところが岸田首相は、8月24日、「2050年の脱炭素社会の実現」を口実に、原子炉等規制法の規定(原則40年とし、例外的に規制委の審査を

後継に作られたものである。ところが岸田首相は、8月24日、「2050年の脱炭素社会の実現」を口実に、原子炉等規制法の規定(原則40年とし、例外的に規制委の審査を

規制委の根拠法である原子力規制委員会設置法をまて、その第1条で「原子力利用における事故の発生を常に想定し、その防止に最善かつ最大の努力」し「専門的知見に基づき中立公正な立場で独立して

本来の役割を果たすべきである。

休止期間は除外

2011年の福島原発事故以来、多くの原発は10年程度休止している。では、電力会社が行う点検の範囲も限定的ではない。電力会社が行う点検の範囲も限定的ではない。電力会社が行う点検の範囲も限定的ではない。

12月4日(日) 老朽原発うごかすな! 関西電力全国集会

午後1時開始 ●関西電力本店前
最寄駅 京阪電車中之島線 渡辺橋駅
地下鉄四ツ橋線 肥後橋駅
午後3時 デモ出発(うつほ公園)
主催:老朽原発うごかすな! 実行委員会

連載 「復帰」50年 沖縄の旅 (最終回)

沖縄県史「女性史」編を読む

「女たちはあらがい、闘いつづける」

女性の視点で

県史を編む

沖縄では2015年から新しい県史22巻が刊行されている。3分2が各論編になっており、「沖縄戦」とともに、その柱が「女性史」である。650頁に上る大部だが、琉球王国時代から近・現代までの政治・社会・文化・暮らしを研究、調査してまとめている。執筆者は総数42人、20代〜80代まで、8割が女性である。「女性」が単独で章立てされているのは全国で沖縄県史だけだ。ぜひ実物を読んでみたいと思っていた。

沖繩の旅の最終日は、それを閲覧できる那覇市にある沖縄県男女参画センター「ていりる」を訪ねた。貸し出しを頼むと「スタッフの仕事で持ち出しているが、大阪から来たのなら」と親切に持ってきてくださった。もうえる補償ももらえないが、とても印象に残ったのが第七部第三章「土地闘争と女たち」(執筆・鳥山淳)だった。(全体の目次はウェブサイトで検索可)

女だてらと

言われよう

米軍は朝鮮戦争を機に基地の強化拡大のために「銃剣とブルドーザー」で住民・農民から土地を奪い取っていった。1955年、沖縄三大美



軍用地接收に「金は一年土地は万年」と書いたのぼり旗を立てて闘う伊佐浜の住民たち (1955年7月撮影、沖縄公文書館所蔵)



ていりる図書情報室の新聞切り抜きファイル。こんなタイトルの資料がこの女性センターにある？

田の二つと言われ豊かな水と土質の米が有名だった宜野湾村伊佐浜(当時)にもこの攻撃が激しかった。村当局と男達「これ以上抵抗したらもらえる補償ももらえない」と屈してしまい、新聞は「円満解決」と報じた。しかし、女性たちは「私たちに一言の話もなく何が円満解決か。男たちはあまり圧迫が強く折れてしまった。男ができれば女たちが守る」と立ち上がった。子どもを背負って琉球政府に直接交渉したが相手にされず、立法院軍使用土地特別委員会での再審議を要求。そこで女性達は次のように訴えた。

「私たちが主婦は家庭内の子どもの養育のみを天分と考え、土地問題とか大きな問題は男の仕事と、今まで夫や父に従い暮らしてきました。(略)こんな不幸に突き落とされ、可愛い子ども達の将来を考えると、女だてらにといわれても率先して土地を守らねばと立ち上

がりました。我々は愛ゆえに勇敢になりました。子を思う母の強さをくじく力は絶対にありません。一歩も立ち退かない覚悟です」(琉球新報1955年2月6日付)。

この女性達の迫力に圧倒され、人民党の議員の働きもあり、立法院は米軍に接收中止を申し入れた。米軍側はまったく応じなかったが、その時こういった。「沖縄では女は男の言うことに反対しない」と聞いていたが、地主(男)が承諾したものを女が蒸し返すとは…(琉球新報同2月8日付)。女性達はあきらめずメーデーにも参加し、本土にもアピールを送り、それは男達を再度立ち上げさせ、

全県に支援が広がっていった。だが、米軍が一方的に決めた立ち退き期限の7月19日、武装米兵が未明に村を囲み、「銃剣とブルドーザー」で田畑も家も潰されて接收されてしまった。

イグナヤ、イクサノサチバイ

伊佐浜のたたかいは、阿波根昌鴻さん率いる伊江島民の抗議行動「乞食行進」から全沖縄を巻き込む「島ぐるみ闘争」に引き継がれていく。その起点は伊佐浜の女性達のたたかいだ。家父長制(ヤマト化)の中で持ち込まれたもの(のくびきを自ら断ち切って立ち上がった伊佐浜の女性の姿

は「イグナヤ、イクサノサチバイ(沖縄の古くからの言葉―女はたたかひの先駆け)だった。「女性の視点から歴史を編み直す」ことにより、民衆運動の中で女性の存在が浮かび上がる。読む者にはその時の女たちの息吹が感じられ、まさにチムドンドンだった(筆者には北富士忍草母の会や三池炭鉱争議での主婦の会、三里塚婦人行動隊の姿も重なる)。日本全国、全世界で女たちは闘いの先駆けだということに気がつく。

1999年に国旗・国歌法が成立したのを受けて、翌00年から始まった「日の丸・君が代」ホットラインを引き継ぎ、13年秋に結成された「日の丸・君が代」強制反対、不起立処分を撤回させる大阪ネットワーク。その第6回総会が10月29日、大阪市内で開かれた。冒頭で、国旗国歌条例制定後、最初の不起立処分者の方の山田肇さんが3月に亡くなったと報告された。

「島ぐるみ闘争」今も女性の視点から書かれた歴史書が行政側から出されたことの意味は大きい。それを可能にしたのは、今も続く「島ぐるみ闘争」の先頭に立つ沖縄の女性達自身の方だと思える。米軍による性暴力事件は軍事主義が生み出した構造的なもの。「基地のない平和な沖縄、世界をめざしてたたかいつづける沖縄の女性達に、心からの敬意と連帯の思いを込めて、この連載を閉じたい。(山野 薫)

「チムグクルで考えよう デニー知事トーク キヤラバンin広島」が開催された(11月12日)。玉城知事は、普天間、辺野古、日米地位協定、基地問題など統計や図表を示しながら説明。「基地問題は(沖縄)差別問題でもあり、広島の人たちも『チムグクル(心に宿る深い思い)を受け止めた。』」(江)

「チムグクルで考えたい」

玉城知事が訴え 広島

場の県外、国外移設を検討するべきだ」と訴えた。知事の言葉から「チムグクル」の存在が伺える。玉城知事は、普天間、辺野古、日米地位協定、基地問題など統計や図表を示しながら説明。「基地問題は(沖縄)差別問題でもあり、広島の人たちも『チムグクル(心に宿る深い思い)を受け止めた。』」(江)

「チムグクルで考えよう」の場外、国外移設を検討するべきだ」と訴えた。知事の言葉から「チムグクル」の存在が伺える。玉城知事は、普天間、辺野古、日米地位協定、基地問題など統計や図表を示しながら説明。「基地問題は(沖縄)差別問題でもあり、広島の人たちも『チムグクル(心に宿る深い思い)を受け止めた。』」(江)

「島ぐるみ闘争」今も女性の視点から書かれた歴史書が行政側から出されたことの意味は大きい。それを可能にしたのは、今も続く「島ぐるみ闘争」の先頭に立つ沖縄の女性達自身の方だと思える。米軍による性暴力事件は軍事主義が生み出した構造的なもの。「基地のない平和な沖縄、世界をめざしてたたかいつづける沖縄の女性達に、心からの敬意と連帯の思いを込めて、この連載を閉じたい。(山野 薫)

「チムグクルで考えよう」の場外、国外移設を検討するべきだ」と訴えた。知事の言葉から「チムグクル」の存在が伺える。玉城知事は、普天間、辺野古、日米地位協定、基地問題など統計や図表を示しながら説明。「基地問題は(沖縄)差別問題でもあり、広島の人たちも『チムグクル(心に宿る深い思い)を受け止めた。』」(江)

国葬反対の取り組みに成果 大阪府の違法行為が確定

大阪府の違法行為が確定

大阪府が10月29日、大阪市内で開かれた。冒頭で、国旗国歌条例制定後、最初の不起立処分者の方の山田肇さんが3月に亡くなったと報告された。

再任用拒否は違法

裁判闘争では、梅原聡さんが最高裁で「再任用拒否は違法」という判決を勝ち取った。梅原さん

大阪府の違法行為が確定

大阪府が10月29日、大阪市内で開かれた。冒頭で、国旗国歌条例制定後、最初の不起立処分者の方の山田肇さんが3月に亡くなったと報告された。

再任用拒否は違法

裁判闘争では、梅原聡さんが最高裁で「再任用拒否は違法」という判決を勝ち取った。梅原さん

論考 東アジアの平和を構築する (第1回)

ウクライナ侵略と集団的自衛権

泰 香月

はじめに

今年8月2日、ナンシー・ペロシ米下院議長は、中国政府の猛烈な抗議を押し切って台湾訪問を強行した。これに対して中国側は、同月4日から9日にかけて台湾周辺で大規模な軍事演習を実施した。

ウクライナの時も、みんなそう考えていた。「まさかのプーチンが、やすすとアメリカの挑発に乗るような行動はとらないだろう」というものであろうし、実際、そのように事態は推移していったと思いたい。

ウクライナの時も、みんなそう考えていた。「まさかのプーチンが、やすすとアメリカの挑発に乗るような行動はとらないだろう」というものであろうし、実際、そのように事態は推移していったと思いたい。

ウクライナの時も、みんなそう考えていた。「まさかのプーチンが、やすすとアメリカの挑発に乗るような行動はとらないだろう」というものであろうし、実際、そのように事態は推移していったと思いたい。

ウクライナの時も、みんなそう考えていた。「まさかのプーチンが、やすすとアメリカの挑発に乗るような行動はとらないだろう」というものであろうし、実際、そのように事態は推移していったと思いたい。

8月のペロシ訪台によって、台湾海峡をめぐる軍事衝突が起こる予想した専門家はいなかったし、実際にそうならなかった。しかし、アメリカが執ように中国に対する挑発を続けていけばどうなるだろうか。それはなぜか。それを解

8月のペロシ訪台によって、台湾海峡をめぐる軍事衝突が起こる予想した専門家はいなかったし、実際にそうならなかった。しかし、アメリカが執ように中国に対する挑発を続けていけばどうなるだろうか。それはなぜか。それを解

8月のペロシ訪台によって、台湾海峡をめぐる軍事衝突が起こる予想した専門家はいなかったし、実際にそうならなかった。しかし、アメリカが執ように中国に対する挑発を続けていけばどうなるだろうか。それはなぜか。それを解

8月のペロシ訪台によって、台湾海峡をめぐる軍事衝突が起こる予想した専門家はいなかったし、実際にそうならなかった。しかし、アメリカが執ように中国に対する挑発を続けていけばどうなるだろうか。それはなぜか。それを解

8月のペロシ訪台によって、台湾海峡をめぐる軍事衝突が起こる予想した専門家はいなかったし、実際にそうならなかった。しかし、アメリカが執ように中国に対する挑発を続けていけばどうなるだろうか。それはなぜか。それを解

プーチンは「異常」なのか

なぜウクライナで予想外の事態が発生したのだろうか。その理由として三つの可能性を考えてみよう。

2番目は、従来の「安全保障政策上の常識」を覆すような「想定外の事態」がロシアとウクライナをめぐって発生している

2番目は、従来の「安全保障政策上の常識」を覆すような「想定外の事態」がロシアとウクライナをめぐって発生している

2番目は、従来の「安全保障政策上の常識」を覆すような「想定外の事態」がロシアとウクライナをめぐって発生している

2番目は、従来の「安全保障政策上の常識」を覆すような「想定外の事態」がロシアとウクライナをめぐって発生している

1番目は、ロシアの戦争指導部が「異常」だったという可能性だ。そして3番目は、そもそも「安全保障政策上の

1番目は、ロシアの戦争指導部が「異常」だったという可能性だ。そして3番目は、そもそも「安全保障政策上の

1番目は、ロシアの戦争指導部が「異常」だったという可能性だ。そして3番目は、そもそも「安全保障政策上の

1番目は、ロシアの戦争指導部が「異常」だったという可能性だ。そして3番目は、そもそも「安全保障政策上の

1番目は、ロシアの戦争指導部が「異常」だったという可能性だ。そして3番目は、そもそも「安全保障政策上の



全保障問題」であり「根源的な脅威」とは、「NATOの東方拡大、その軍備がロシア国境に接近している」と述べていた。「NATOの東方拡大」が何を指しているのかは議論のあるところだが、

また演説では「数多くの血生臭い犯罪を犯している」と述べ、それは現実的ではない。だとすれば、「非軍事化」とはウクライナがロシアに

2439人が投降し、多くの血生臭い犯罪を犯している」と述べ、それは現実的ではない。だとすれば、「非軍事化」とはウクライナがロシアに

2439人が投降し、多くの血生臭い犯罪を犯している」と述べ、それは現実的ではない。だとすれば、「非軍事化」とはウクライナがロシアに

侵略戦争の正当化

さて、演説では「計画にウクライナ領土の占領は入っていない」と明言していたので、特別軍事作戦の目的は、ウクライナ東部・ドンバス地方のロシアへの併合ということであった。演説の通り、

さて、演説では「計画にウクライナ領土の占領は入っていない」と明言していたので、特別軍事作戦の目的は、ウクライナ東部・ドンバス地方のロシアへの併合ということであった。演説の通り、

さて、演説では「計画にウクライナ領土の占領は入っていない」と明言していたので、特別軍事作戦の目的は、ウクライナ東部・ドンバス地方のロシアへの併合ということであった。演説の通り、

プーチンは、「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の救済要請を受けて、「8年間、ウクライナ政府によって虐げられ、ジェノサイドにさらされてきた人びとを保護」し、「ウクライナの非軍事化と非ナチ化を目指していく」ために「特別軍事作戦」の実施を決定したと発表した。プーチンはまた、「ロシア国民を含む民間人に対し、数多くの血生臭い犯罪を犯してきた者たちを裁判にかける」ことにも言及した。その一方で、「私たちの計画にウクライナ領土の占領は入っていない」と表明した。

これは国連の「侵略の定義にかんする決議」(1974年)に照らすまでもなく、あからさまな侵略戦争である。ところが、2月24日の演説でプーチンは、「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の救済要請があったため、国連憲章第51条に基づいて集団的自衛権を行使したのだとその正当性を強弁した。

これは国連の「侵略の定義にかんする決議」(1974年)に照らすまでもなく、あからさまな侵略戦争である。ところが、2月24日の演説でプーチンは、「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の救済要請があったため、国連憲章第51条に基づいて集団的自衛権を行使したのだとその正当性を強弁した。

常識」と言われていたものが、かなり怪しいものだったという可能性だ。まず、ロシアの戦争指導部の「異常性」について検討してみよう。

常識」と言われていたものが、かなり怪しいものだったという可能性だ。まず、ロシアの戦争指導部の「異常性」について検討してみよう。

常識」と言われていたものが、かなり怪しいものだったという可能性だ。まず、ロシアの戦争指導部の「異常性」について検討してみよう。

常識」と言われていたものが、かなり怪しいものだったという可能性だ。まず、ロシアの戦争指導部の「異常性」について検討してみよう。

プーチン大統領は、2月24日の侵攻直前にロシアの国営テレビで放送された演説(注1)の冒頭で、「ロシアの重要な安

プーチン大統領は、2月24日の侵攻直前にロシアの国営テレビで放送された演説(注1)の冒頭で、「ロシアの重要な安

プーチン大統領は、2月24日の侵攻直前にロシアの国営テレビで放送された演説(注1)の冒頭で、「ロシアの重要な安

プーチン大統領は、2月24日の侵攻直前にロシアの国営テレビで放送された演説(注1)の冒頭で、「ロシアの重要な安

「ウクライナの非軍事化と非ナチ化」とは具体的に何を指しているのか。「非軍事化」がウク

「ウクライナの非軍事化と非ナチ化」とは具体的に何を指しているのか。「非軍事化」がウク

「ウクライナの非軍事化と非ナチ化」とは具体的に何を指しているのか。「非軍事化」がウク

「ウクライナの非軍事化と非ナチ化」とは具体的に何を指しているのか。「非軍事化」がウク

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220304/k10013513641000.html

注1) 松竹伸幸「集団的自衛権の真相」(平凡社新書、2013年)



「産む性」としての保護が 女性の社会参加を保障する

「男性学」から考える ⑤ 当間弓子

男性中心社会で育ってきた男性は、時として破廉恥なまでに女性問題に鈍感なままであることがある。前回紹介した95年世界女性会議で、日本政府代表4人のうち、女性

「母性本能」は幻想 「女性には母性本能がある」「女は子宮で考える」。様々なデータが「母性本能」が幻想にすぎないことを裏付けている。

野放しだった。著者は、読者がわかりやすいように公衆トイレを例にして説明する。「男性原理」にしたがってトイレの面積が機械的に男女同じに作られていることが多い。

30件もの無罪判決を確定した元裁判官の木谷明氏。その木谷氏と同時期に、14件の無罪判決を

倒れでほとんど機能していない。検察官の立証にいくつもの矛盾があっても、「弁護士が無罪を立証」できなければ、およそ無罪にはなりえない。

ひっくり返すことができないのか。今村弁護士は「解決不能の課題」に自分の生きる目標を置いている

1コマ単位で立証を行う。日本の刑事裁判の闇をい、3つの鑑定書を提出。とその犠牲になる無辜の2審の判決は無罪だった。

の歌が素晴らしかった。署名してくれた女性が奄美出身。奄美の状況を聞く。若い2人連れ女性は



署名に応じる女性=5日、神戸市

「男性原理」 これまでの性別分業社会では「産む性」であることを無視した「男性原

新・私のジェンダー考 (11) 「男性学」入門の最後がトイレの話になってしまったが、男性こそが女性の解放に心を寄せてくれることを願います。

「産む性」としての保護は女性の社会参加を保障するのである。

「男性学」入門の最後がトイレの話になってしまったが、男性こそが女性の解放に心を寄せてくれることを願います。

「産む性」としての保護は女性の社会参加を保障するのである。

「産む性」としての保護は女性の社会参加を保障するのである。

「産む性」としての保護は女性の社会参加を保障するのである。

「冤罪弁護士」今村核の挑戦
NHKドキュメンタリーで話題
有罪率99.9%の壁を打ち破れ
14件もの無罪判決を勝ち取り続ける異能の弁護士の物語

三里塚の産直野菜
葉物の「50℃洗い」
葉物野菜の保存。萎れていたら、茎の切り面を1ミリほど新しくカット、水に浸せばしゃきっと。大きめのボウルに50℃のお湯を入れ、葉物全体を1〜2分浸し濯ぐように洗うと鮮度が戻りアクも押さえられます。

三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。

お問い合わせ) TEL/0799-72-5242 E-mail/kanjitsu_mail@yahoo.co.jp

トガシさんの「沖縄便り」④

明治維新と琉球国 (下)

1872年(明治5年)の旧暦10月2日、伊江王子一行は気持ちよく品川から船に乗り、10日に大阪に着き京都遊覧をし、21日に大阪を離れ、鹿児島に向かったのです。兵庫の和田岬を通るとき宜野湾朝保は、行く船の和田の岬を廻る間は波にいざよへ夕月

国内人類と 同じではない

大蔵卿、井上馨は琉球に對し「かの酋長を呼んで不臣の罪を責め」とつづつ「我を生蕃アイヌ視したるもの



支那人、インド人、ジャワ人」として、32人が民族衣装を着せられ、「展示」されるという「事件」につながりました。

と詠いました。気持ち良かったのでしょね。

琉球王から 日本国服従へ

政府の魂胆は、まだ彼らには分からなかったよ

1903年、大阪博覧會が開かれた時、「人類の元勳と言われた当時の砂族、琉球人、朝鮮人、

今となっては、大変に興味深い認識です。明治の元勳と言われた当時の

川柳

利秋

これ以上がみつくなと言う手すり「しっかりね」「私しっかりしています」

困りますか放題を友が買っておとめ座ですなにか都合ありますか

もう一人私がいたらやかましい許そうとしたら許すと云ってきた

豆ごはん食べると母の音がするウイルスと闘う医師とナースたち

いいちゃんは遊びすぎだと孫が言う平和ってなんだ子どもが笑うこと

(吉田利秋「現代川柳」ほか会員、平和美術展に参加。川柳集「最新ピンチはチャンス」より)



那岐山の古刹、菩提寺境内に悠然と立つ。樹齢推定900年のイチヨウの大樹。高さ約40m、幹囲約13m。法然上人が学問成就を祈願して挿した枝が芽吹いたとされる。伸びた枝が、雪の重さで地に着き育った樹齢200余年の「天明のイチヨウ」も、傍にある。(撮影：10月下旬、岡山県奈義町/ヒロ)

民主主義育てる図書館

永田浩三さん 広島で講演

永田浩三さん(武蔵大 学教授)の「日本の図書

島市内、11月6日(こども図書館移転問題を考える市民の会主催)。



図書館船「ひまわり」

永田さんは、広島出身で日本の図書館の発展に尽力した元・国立国会図書館副館長の中井正一さんの「真理は見ることで

「図書館の自由宣言」なことを紹介した。図書館の自由宣言は、「ひまわり」(写真上)が島を巡った。今は「ふね

声

狭山再審へ小さな写真展 少しでも地域に広めたい

10月、「狭山裁判写真展」を開催することができました。ささやかな催

求める市民の会・こうべ他からの応援を受け実現にこぎ着けました(10月30日、神戸市垂水区内/主催：狭山裁判写真展実行委員会)。

私はずだん訪問介護ヘルパーをしています。利用者みなさんは、年齢的にいゆる「60年〜70



狭山裁判写真展

米中間選挙の報道に、久しぶりにトランプ元大統領の行動を見せつけられ、分断の凄さに慄然とした。一方で掛川さんの書評・論考「資本主義を越えるアメリカ」を読み、希望も感じられる。なんと不思議な国か。さて日本は? (ま) / 「うみ」さん、いいな。手紙というより詩で